上演⑥　名古屋南高校「月曜日の彼女」

１週間で記憶がリセットされてしまうという世界観を最初にケンがモノローグとして巧みに観客へ提示し、この世界の見方を違和感なく見ることが出来ました。ケンのモノローグのセリフは詩的で魅力的で見ていてこれからどんなことが起こるのかワクワクしました。

舞台美術もリアルなカフェがよく出来ていて美しかった。

ＯＰダンスも含めて良い意味身で青さがある作品でまぶしく感じられました。

戯曲については１週間で記憶がリセットされるという設定の他に覚えている事、覚えていない事の事柄が煩雑で混乱してしまうことがあった。これは記憶に対してのイレギュラーなもの語りを持っている人間が多いことがあげられるのではないでしょうか。また集約はケンとマイコになると思うのですが色々な人の出来事が割と均等に比重が置かれていたため、２人の関係性にスポットがあたりづらくなってしまったように感じました。

記憶はなくなる世界だとしても「大事な人。事はわすれない」ということが作品として伝わってくるのですがケンがなぜマイコを好きになるのか。マイコがケンを覚えていたいと思うところはどこなのか２人の間で生まれるものを丁寧に見たかったなと思いました。

演出については横芝居（対面）が多いので距離感や縦軸も意識できると立体的になると思います。演技にも関係しますがテンポ感をつくるためにセリフがすべて早い回しになってしまったが時にはスローダウンしたり、とまってみたりテンポコントロールが効くと芝居にメリハリがでたのではないかと感じました。

演技について盛り上がってしまうシーンであったり、緊迫したシーンになればなるほど、早口過ぎて何を言っているかわからない箇所が多いように感じました。

また俳優はセリフを話す以外にも武器があります。相手役の言葉を聞いたときのリアクションであったり、距離感、目線、話す対象（ベクトル）身体接触。

たとえば最後、ケンとマイコが見つめ合うとか。見つめ合うことで２人の間に何か起こるか感じられたらより深みのある作品になるのではないかと思いました。